

職員については、「急に困ったことやトラブルがあっても職員はすぐには来ない。1週間くらいしてから来るので、解決していることが多い」という意見があった。一方で悩みは「先生（＝職員）に相談する」という人もいた。

(2) 職員の調査結果

・施設と地域の生活の比較

施設の生活と地域の生活における本人の様子を比較すると、「地域の生活の方が良い」とする人が大半（8人中5人）で「本人の表情が別人のよういきいきとよくなった」「一回り大きくなったように見える」「たくましいなあと感じ、地域で暮らしているという自信を感じる」「たくさん話しができるようになる人が多い」などの意見が聞かれた。

一方で地域移行の考え方には賛同しながらも「単独で夜間、悪天候で出て行ってしまった人がいて心配した」「自殺未遂や拒食、うつになる人もいる」など心配な例ばかりをあげる人もいた。

・近隣との関係

近隣との関係については、「地域の催し物や行事の情報を提供し参加を促している」「ゴミ集め、町内会報配りをしている」などの意見があった。しかし「つきあいは挨拶程度になっている」「障害者が住んでいるというだけで、苦情がでたり、まだまだ理解されていないと感じる」など近隣との関係が十分には築けていないことが伺えた。

・地域生活支援について

「買い物」「飲酒」「帰宅時間」「金銭」「体調」「衛生面」など、管理をどのようにしていくかをあげる人が多かった。「（利用者は）保護者からお預かりしている大切な体だから安全と健康管理が第一」と回答する人や「金銭管理は本人が自分で管理したいと希望した場合であっても、家族の承諾をえられず自己管理できない場合もある」など最も重視する対象が「本人」ではなく、「家族」に向けられている人もいた。また就労支援について「職場から手をださないように言われているが、送迎しないと確実に職場に行かない場合もあるので割り切って送迎している」と回答したり、こずかいについて「（紛失防止のため）あまり使っていない場合は所持金額を確認させてもらい、5000円以上貯まっている場合は一旦渡すのを止め、それを先に使ってもらうようにしている」と本人の失敗体験を回避するための保護的なかわりをしていく現状が伺えた。その一方で「健康面、衛生面でどこまで職員が手を出せばいいのか難しい」と今までの管理的なやり方を変えていく必要性を感じながらも、どのように変えて行けばいいのかわからないといった戸惑いの声をあげる人もいた。

引っ越しについては「本人の希望を聞くこともあるが、よかれと思ってやっても裏目に出ることもあるので職員が修正しながらやっていく」「利用者からホーム間の移動の希望が出されることがあるが、人間関係や健康面の事情なども考慮しながら入れ替えを行う」など本人の希望を聞きつつも職員が調整していた。

自立では多くの人が日中活動の場がなく、一日の大半を自立訓練ホームの中で過ごしているのが現状である。しかしそのことを課題としてあげた職員はひとりもいなかった。

・「船形コロニー解体宣言」について

船形コロニーの解体については、大半の人（8人中6人）が、「医療的ケアの必要な人」「重度重複障害をもった人」「高齢の人」「行動障害のある人」のために施設の一部を残し、完全に解体することについては懐疑的であった。しかし中には「地域生活のほうが普通で

あたりまえだと思う。障害の重い方もそれなりの支援体制を整えて、地域生活に移行すべきである」とする人もいた。

(3) 本人の家族の調査結果

・施設の生活について

大半の人（8人中5人）はコロニーの生活について、「いいところ」「ありがたかった」「助かるいい所」という表現でコロニーの生活について肯定的であった。2人だけが「施設の生活は自由が少なく、常に仕切られたところにいるという感じではないかと思った」「仕事をしている姿をみたことがなく、ぼんやりしている感じだった」と述べた。

・施設と地域の生活の比較

施設の生活と地域の生活での本人の様子を比べると、大半の人（8人中7人）は「施設よりホームの方が気に入っているのではないか」「おそらく本人は満足して生活しているようだ」「気持ちの合った人と4人で暮らしているから、のんびりと暮らしている」などと答え、地域の生活の方が本人の満足度は高いと答えた。また本人の満足度は感じながらも、「施設に入っている方が家族としては安心感がある」「今までどおりコロニーで生活してくれるのが一番安心」と答え、家族としてはコロニーの生活の方が安心という人たちもいた。

コロニーから自立やGHに移る際に「地域生活が継続できないときはコロニーに戻れる」という説明を口頭や文書で受けたことで安心したという人が8人中5人であった。

・地域生活支援について

現在や将来の地域生活支援については「要望は何もない」「やってもらえるだけでありがたい」という家族もいた。その一方で様々な要望や不安を訴える家族もいた。その中で最も多かった（4人）のは、高齢化して自立やGHを出なければならなくなった後の本人たちの生活の場の保障への要望であった。「寝たきりになった時、家族でケアしなければならないと言うのであれば困ってしまう」「年齢を重ねて、仕事ができなくなった時、きょうだいが見るのが当然だという考え方もあるだろうが、・・・大変になるだろう。」「家に連れて帰ってくださってことになると一番心配。特別養護老人ホームに確実に入れる保障がほしい」など切実な訴えが聞かれた。

次に多かった（3人）のは、職員や世話人に対する要求であった。「世話人が一人では足りないと思う。安全面で不安がある」「世話人さんからはほとんど連絡は無い」「GHを作るのはいいが、そこに入ってくる世話人や職員がどのようにしているかが問題」などと述べられ、支援に対して質、量共に不安を感じている様子が伺えた。

地域住民の理解不足への不安を訴える人（2人）もいた。「近隣の住民との関係がどうなっていくのか不安である」「地域住民の理解が必要」と述べられた。そのうちの一人は本人のGHと家が近くにあるため自分の家族を含めた問題として考えておられるのではないだろうか。

・「船形コロニー解体宣言」について

解体の宣言は「突然でびっくりした」「唐突だった」「寝耳に水だった」とした人が4人であった。そして多くの人（5人）は、「解体せずに何らかの形で残して欲しい」「解体は・・・なかなか難しいと思う」「後輩のためにもこのような施設はあった方がよい」などと述べ、コロニーの存続を望む声が強かった。

・本人と家族を同じ調査員がインタビューしたケースについて

今回の調査は調査員が9人で行った。いくつかのケースで偶発的に同じ調査員が本人とその家族の調査を行うことがあった。そのうちのいくつかのケースで、本人の想いを周囲は十分には受けとめていないのではないかと、と思われるものがあった。そのうちの2例を挙げておきたい。

例えばAさんの場合、両親のインタビューでは何度も「うちのは重度だから」「うちの子は何をいってもハイハイだから親としても判断できない」「イエス・ノーが言えないから楽しいと聞けば、楽しいと答えてしまう。」とAさんについてコメントしている。このような言葉からは、自分の意思で判断ができない、またはそれを表現できないというAさん像がイメージされる。しかし実際の本人のインタビューでは、「コロニーの生活はどうだったか」という質問に対して「朝寝坊をした時怒られた」、「コロニーを出たいと思って職員に伝えたことはあるか」という質問に対して「ある。〇〇先生」と答えている。また「引っ越す時はどのような気持ちだったか」という質問に対しても「楽しかった」とはっきりと答えている。「洗濯はどんなふうに行っているか」という質問に対しても「みんなで行っている。干すのは自分。取り込むのは先生。たたむのはみんなで」と答えている。ここでは調査員の質問に短いながらも十分に自分の意思を伝えることのできるAさんがイメージされる。

またBさんの場合、きょうだいのインタビューでは引っ越しについての質問に対して「本人は移るのがいいと聞かれば、いいというし、いやかと聞かればいやと言ってしまうんです」、地域の住まいについて「(施設と)どっちがいいかは判断できていないと思う」と語られた。またBさんについての職員が記載したインタビューガイドIには、施設の生活についてBさんは「たのしそだった」、Bさんの将来の希望について「何も無い」と記載されていた。しかし実際にBさんにインタビューをしてみると、施設の生活について「いやだった。いつともだちにいじめられた」とはっきり語っている。また地域の生活については「ここは良い」としながらも「〇〇ちゃんにいつともあっちいけといわれる。別の人と住みたい」と語る。また将来の希望についても絵カードを見せながら問うと「旅行」「レストラン」「ドライブ」「ダンス」などに「やってみてえ」と笑い、「散歩」や「映画」などには「してくねえ」と笑う。また地震の時について「おっかねかった」と力をこめて話される。小声でぼつりぼつりと話されるのであるが、きょうだいや職員のとらえているBさん像と大きな差を感じた。

6. 考察 ・より良い地域生活支援システムの構築をめざして・

(1) 本人たちの地域生活は入所施設での集団管理・保護的な処遇からどの程度解放されているのか

本人の調査結果より、施設と地域の生活を比べて、「地域の生活の方が良い」とした人が大半で、「施設の方が良かった」とした人はいなかった。施設の生活は、「厳しかった」「騒がしかった」など具体的な理由をあげて地域の生活が良いと答える人もいた。その一方で「先生(=職員)は優しくかった」「施設も良かった」などと施設に批判的ではないが、比較すると「地域の生活の方が良い」と答える人もいた。一般には地域移行の時期についての様々な意見(地域生活支援の体制が十分に整っていない間は止めた方よい、など)はあるが、本調査からは、本人の満足度からすると、たとえ地域生活支援体制が未整備な状態でもできるだけ早く移行し、施設ではなく、地域で暮らしを始めるだけでも大きな意義があると考えられる。また施設の生活が長く、一見地域移行への希望がないように思われる本人に対しても、体験的な地域生活を行い、ニーズの掘り起こしを行っていく必要があるだろう。

しかし本人の調査結果から、自立、GH内に「きまりがある」と回答した人が大半であっ

た。職員の調査結果からは、地域生活支援の課題の焦点は「いかに管理するか」になっていることがわかる。また本人の希望よりも家族の希望に焦点をあてた支援がなされていたり、本人の失敗を回避する保護的なかわりがみられ、集団管理・保護的な施設職員の体質が全く変わっていないことが伺われる。さらに自立の人の大半は日中活動が保障されていない現状に、早急に取り組む必要がある。それにも関わらず、職員の中にそのような問題意識をもっている人はだれもいなかった。つまり現在の地域生活は、入所施設に比べて規模が小さくなり、地域の中に生活の場所は存在するものの、そこで行われているケアは入所施設と同じ集団管理・保護的な処遇の色彩が強いものであり、それは入所施設の縮小版、つまり「ミニ施設化」状態であり、これでは地域生活とは言い難い。これまでの「集団管理・保護」から「個別的な支援」へと職員の役割をシフトさせるために職員の意識改革がまず必要である。具体的には以下のような取り組みを早急にすすめることが職員、事業団に求められている。

(2) 現在の「ミニ施設化」した地域生活の質をより良いものにしていくためにはどのような支援が必要であるのか

・一人ひとりの希望を傾聴し、できるだけ実践していく。

自立のうち、一日の大半を自立訓練ホームで過ごしている人の半数は、インタビューの中で「やってみたいこと」を挙げている。たとえ毎日支援できなくても「1週間のうち1日はAさんのやりたいことを叶える日」として「掃除」「洗濯」など時間をかけて行っていく。さらに「ドライブ」も「職員が足りない、費用がない」と言わず、どのようにすれば実現できるかを探り、試していくことが重要である。「金銭管理」「引っ越し」についても同様である。そのためにはホームヘルプサービスなども積極的に利用していくことが必要である。本人の希望を傾聴し、積極的にそのニーズを満たしていく、うまくいかなかった時に一緒に考えて行くことが職員の支援の基本役割である。決して先回りをして失敗体験を回避させたり、本人の希望より家族の希望を優先させるようなことがあってはならない。職員が最も大切にしなければならない対象は「本人の家族」ではなく「本人」なのである。

また「本人と家族をインタビューしたケースについて」で述べた2事例のように本人の能力を周囲が低く評価し、本人の想いを十分に聞きだせていない場合があるのではないだろうか。施設という集団管理のなかでは一人ひとりを持っている想いや願いを十分に表現する機会は与えられてこなかっただろう。たとえ言葉での表現が不十分と思われる人であっても、絵カードや写真などを工夫しながら一人ひとりの「やってみたいこと」「感じていること」を問い直す作業が必要であると思われる。

・地域の人に、本人たちの活動する姿が自然に見える形での支援をしていく。

現在の生活では、自立訓練ホームの中で一日を過ごすか、あるいはコロニーのバスに乗って、コロニーで活動し、帰宅後コロニーからの配食サービスを受けて、同じ夕食とおやつを食べ、あとは入浴、就寝という生活パターンの人がほとんどである。つまり一般就労している人以外は、地域の人と交流する機会がほとんどない。自立訓練ホームで一日をすごしたり、コロニーで活動するのではなく、地域での活動場所を確保することが早急の課題である。さらにその活動も地域の人から自然に見える形のもの（例えば公園や駅の清掃など）、あるいは地域の人と関わりあっていくもの（例えば販売など）にしていくことが望まれる。船形関係者によると、地域にNPOを立ち上げ作業所を作り、2004年4月から運営開始予定とのことである。その活動に期待したい。また活動場所までの移動は、コロニーによる送迎にしてしまうのではなく、公共交通機関を利用することもまた、利用者の存在を地域の中で示して行く方法のひとつである。

兵庫県西宮市の青葉園は重度の障害を持つ人たちの地域生活を支えている。そこでは「青葉のつどい」として市内の公民館4か所を週に一回利用し、近くに住む通所者と職員スタッフが少人数で集まり地域密着型の拠点活動を展開している。例えば「鳴尾東青葉のつどい」では、毎週4人の地元通所者メンバー、2名の職員スタッフ、10数人の地域の人たち（定年退職後地域活動に取り組む方々、主婦の方々）で地域マップづくり、交流行事、市民文化祭、カラオケ、バーベキュー、車椅子をおしてまちへでかける活動をしている。

また広島県因島市の因島であいの家も知的障害をもつ人の地域生活支援を行っている。その支援の中心となっている考えは、「この人たちの本当の姿、思いを知ってもらい、これまで何もできないという誤った障害者観を改めてもらうことが大切。地域でしっかり生きている、役に立とうとしていることを作業を通してわかってもらうことが必要」だとし、具体的には市や民間企業の委託業務（公園の清掃、花壇管理、公民館清掃、駐車場清掃、港清掃、ホテルの生ゴミのゴミ管理、福祉施設の生ゴミを含めた清掃など）を行っている。仕事をとおして本人たちの地域での存在を意識してもらうことにつながるからである。所長である副島さんにお会いした時「清掃の仕事の委託を取るとき、清掃会社と競合したが私たちのメンバーは、一日中そこにいて仕事する点を強調した。清掃会社は数分で終えて次に行ってしまうが、トイレは何度でもよごれる。障害をもった人はゆっくり仕事をするが、何回も洗います、とって委託を勝ち取った」と同った話しが印象的であった。このように知的障害をもつ人の特性を生かしながら行って行く日中活動のやり方が望ましいと思われる。このような地域の人に、本人たちの活動する姿が自然に見える形で支援していくことが地域生活にとって重要なことのひとつである。

・地域とのトラブルをチャンスと捉えられる意識をもつ。

本人や職員の調査結果から、近隣との関係もまだまだ挨拶程度であることがわかる。しかしいくつかのケースで、大家さんとの良い関係、悪い関係が形成されているケースもいくつかあった。悪い関係だから「利用者を引っ越しさせる」という消極的な解決策ではなく、トラブルをひとつのチャンスと捉え、本人を理解してもらうためのきっかけに変えていこうとするような職員の意識と行動力が求められる。

また自治会の会長や子供会、民生委員など地域活動の中心になっている人たちに働きかけ、GHに招待したり、一緒に出かける機会を設けるなど、地域とのつながりを積極的に作っていけるような、職員の前向きな姿勢が必要である。

・GHの世話人の質を高め、さらに本人と地域をつなぐキーパーソンに育てる。

本人の調査結果から、GHの世話人についてはさまざまな意見がでており、「管理的な人」「過干渉な人」「傾聴できる人」など様々な質の世話人がいることが伺えた。つまり世話人は、GHを「ミニ施設化」させる張本人になる可能性ももっていれば、逆の可能性ももっているといえる。知的障害をもつ成人の地域生活を支援することの意味について、ある一定の共通理解が必要だと思われる。そのためには世話人への研修を継続的に行っていくことや世話人同士の定期的な情報交換が必要である。

またほとんどの世話人は地域に住んでいるため、本人と地域を結ぶ貴重なパイプ役にもなれるキーパーソンである。地域生活支援のあり方についての共通理解を深めると共に、本人と地域のパイプ役にもなってもらえるような世話人の育成が求められる。

・一人ひとりの長期的な地域生活の見通しを示す。

これは一職員に求めることではないが、事業団として、GHに移行後、どのような地域生活の選択肢があるのか示す必要があるだろう。例えば希望すれば一生GHで生活できるのか、

GH間の引っ越しはどのような場合になされるのか、どのような場合にアパートに移住するのか、一定の年齢になると高齢者の福祉施設に入るのか、また地域生活に適応できない人は一旦コロニーに戻ってくるのかなどである。そのことを本人一人ひとりについて希望を問いつつながら、本人や家族に明確に示していく必要がある。本人の調査からは仲の良い人がいたのに引っ越しさせられた例がみられたり、家族の調査からは「高齢化して自立やGHを出なければならなくなった後の本人たちの生活の場の保障への要望」が多く挙げられていた。「家に連れて帰ってくださってことになるのが一番心配」というのが家族の本音だろう。本人が高齢化し、家族がきょうだいだけになるとその傾向はますます高まって行く。地域生活についての長期的な見通しを示すことで本人や家族の地域生活への安心感は増すだろう。

また20歳の人を求める地域支援と70歳の人を求める地域支援の内容は全くちがったものになるだろう。このようなライフサイクルも考慮しながら一人ひとりの地域生活の長期的見通しを示していくことが重要である。

・職員の再教育のための研修を実施する。

これまで述べてきたような具体的な支援を実施するためには、職員の再教育が必要である。本報告で先に「地域生活支援」とは、「入所施設ではなく地域のGHやアパートなどにおいて、集団管理・保護的処遇ではなく、一人ひとりのニーズに合わせた個別支援を行うこと」と定義づけたように、そもそも地域では、施設とは全く異なるかかわりが一人ひとりの職員に求められている。前述したように本人の調査結果から、自立、GH内に「きまりがある」と回答した人が大半であった。また職員の調査結果からは、地域生活支援の課題の焦点は「いかに管理するか」になっていたり、本人の希望よりも家族の希望に焦点をあてた支援がなされ、本人の失敗を回避する保護的なかかわりがみられた。つまり集団管理・保護的な施設職員の体質が全く変わっていないことが伺われた。これは本調査の対象の職員が、入所施設での勤務経験がとてども長く、地域生活支援での勤務経験が浅いことも影響しているだろう。

そこで職員について以下のような具体的な研修プログラムを実施することが必要である。まず、入所生活と地域生活では、様々な価値観、考え方が大きく異なっているので、職員のこれまでの援助観を一つ一つ捉え直すプログラムが必要であろう。例えば、「集団管理・保護的な処遇と個別支援の違い」について、具体的な支援の場面を捉えて議論し、それをどう実践するか、を討議する場が必要である。また、この討議の中から、今までの施設での職員のかかわり方の中では欠けていた視点、今後地域生活を行う上で必要とされる視点、について整理することが必要であろう。さらに「知的障害とは何か」、という根本的テーマから、各障害の特性を考慮した地域生活支援とはどのような支援なのかについて、職員がもう一度原点に立ち返り、かかわり方や支援に関する価値観について、自分たち自身が考え直す機会を提供することも大切である。そして、価値観の転換の為には、必要に応じて、先進的な地域生活支援の取り組みをしている他の法人・団体での一定期間の研修も必要だと思われる。こういう再教育に関する費用を省いて、職員の価値観やかかわり方もそのままに、ただ単に施設からGHに本人を「移す」だけならば、そのGHは早急に「ミニ施設化」するのは避けられないだろう。このような職員再教育のための研修は、施設解体を進める船形コロニーでは必要不可欠である、といえよう。

7. まとめ

以上、6(2)にあげた6点を実践していくなかで、地域生活支援システムが次第に形になってくるだろう。地道で根気の要る作業かもしれないが、日本での脱施設化の動きを促進

させ、知的障害をもつ人たちの人間らしい暮らしを保障していくために、息の長い積極的な取り組みが求められる。

参考文献

- ・ 一番ヶ瀬康子、河東田博編、障害者と福祉文化、明石書店、2001
- ・ 河東田博他編著、知的障害者の「生活の質」に関する日瑞比較研究、海声社、1999
- ・ 河東田博他著、ヨーロッパにおける施設解体、現代書館、2002
- ・ Mansell J., Ericsson K. *Deinstitution and Community Living*, Chapman&Hall, 1996
(中園康夫、末光茂監訳、脱施設化と地域生活、相川書房、2000)
- ・ Mayer-Johnson R. *The Picture Communication Symbols Combination Book* Woerless Edition, Mayer-Johnson Co., 1995
- ・ Ratzka A. D. *Independent Living and Attendant Care in Sweden: A Consumer Perspective* 1986 (河東田博、古関・ダール瑞穂訳、スウェーデンにおける自立生活とパーソナル・アシスタンス 当事者管理の論理、現代書館、1991)
- ・ Simson, J. C. *Group Home and Community Integration of Developmentally Disabled People : Micro-Institutionalization?*, Jessica Kingsley Publishers, 1993
- ・ Worrell, B. *People first: advice for advisors*, Peter Park, 1988 (河東田博編訳、ピープル・ファースト 支援者のための手引き、現代書館、1996)

資 料

各種調査用紙

対象者基礎調査用紙（インタビュー対象者に関する調査票）

対象者用面接調査用紙（インタビューガイドⅡ）

家族用面接調査用紙（家族のインタビューガイド）

職員用面接調査用紙（職員のインタビューガイド）

インタビュー対象者に関する調査票』記入のお願い

地域移行及び本人支援の在り方／地域生活支援ネットワーク研究プロジェクト

代表：河東田 博

当プロジェクトでは、厚生労働科学研究費補助金などを受けて「障害者本人支援の在り方と地域生活支援システム」などに関する研究を実施しております。その一環として、自活訓練ホーム（自立訓練ホーム）やグループホームの利用者を対象にした聞き取り（インタビュー）調査を実施したいと思っております。

つきましては、事前に調査対象者の情報を把握してより効果的な聞き取り調査を実施したいと考えておりますので、日常的に調査対象者の支援を行っている職員の方々に調査票の記入をお願い致します。ご多用のこととは存じ、大変恐縮ではありますが宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

なお、本調査票は〇〇長に集約をお願いしております。〇月〇日までに、各園の責任者を通して〇〇長へお渡し下さいますようお願い申し上げます。

1. はい 2. いいえ 3. わからない

13 対象者はできることは自分でしょうとしていますか。

1. はい 2. いいえ 3. わからない

14 対象者はできないことを自然に人に頼むことができますか。

1. はい 2. いいえ 3. わからない

II 地域の住まいへの移行プロセス

1 対象者は施設でどの位生活していましたか。 () 年

2 対象者の施設での生活はどうでしたか。[複数回答可]

1. 楽しそうだった
2. あまり楽しそうではなかった
3. 暗い感じがした
4. 精気がなかった
5. 早く施設から出たがっていた
6. その他 (具体的に:)

3 施設から自活訓練ホーム (自立ホーム・グループホーム) に引っ越す前に地域生活に関して対象者の希望を尋ねましたか。

1. はい 2. いいえ 3. わからない

4 対象者は施設を出て地域で暮らすようになって、どのくらい経ちますか。(年)

5 対象者に施設をでて地域で暮らすことをいつ伝えましたか。

1. 引っ越す1年以上前 2. 引っ越す半年ぐらい前
3. 引っ越す1ヶ月ぐらい前 4. 引っ越す直前 (2週間ぐらい前)

6 だれが、どのように、対象者に引っ越しのことを伝えましたか。

1. 親 2. 職員 3. 仲間 4. その他 ()

・どのような方法・手段で伝えましたか。(複数回答可)

1. ビデオを見せる
2. 写真を見せる
3. 地域 (自活訓練棟・自立ホーム) で生活している人の話を聞いてもらう
4. 地域 (自活訓練棟・自立ホーム) で生活している人の様子を見学してもらう
5. 自治会などで、地域生活をしたい本人たちと話し合う
6. 実際に地域生活を短期間体験する
7. 言葉で説明する
8. その他 ()
9. わからない

7 その時、対象者はどのように感じていたと思いますか。(複数回答可)

1. うれしい 2. 悲しい 3. いやだ 4. 寂しい
5. 施設から出られることがわかってさっぱりした 6. 明るい 7. 不安
8. 元気がでる 9. その他 (具体的に:)

8 引っ越す時に対象者はどんなようすでしたか。(複数回答可)

1. うれしい 2. 悲しい 3. いやだ 4. 寂しい
5. 施設から出られることがわかってさっぱりした 6. 明るい 7. 不安
8. 元気がでる 9. その他 (具体的に:)

9 対象者の地域生活移行プロセスについて、何かコメントがありましたらお書き下さい。
()

Ⅲ 対象者の現在の生活

1 生活状況

(1) 対象者は今どのような居住形態でくらしていますか。

1. 自活訓練ホーム・自立訓練ホーム () 人部屋 () 人のホーム
2. グループホーム () 人部屋 () 人のグループホーム
3. アパートや持ち家
4. その他 (具体的に:)

(2) 対象者は、施設を出て今の住まいに落ち着くまでどの位引っ越しをしましたか。また、これまでどんなところに住んでいたかを教えて下さい。

計 _____ 回変更した

_____ → _____ → _____ → _____ → _____
_____ → _____ → _____ → _____ → _____

(例：入所施設K園 ? 職員寮 ? N自立ホーム ? Bグループホーム)

(3) 対象者は、今の居住状況に満足していますか。

1. かなり満足している
2. 満足している
3. 不満である
4. かなり不満である
5. わからない

(4) 対象者は居住状況を変えてみたいと思っていますか。

1. はい (それはどうしてだと思いますか:)
2. いいえ

2 日中活動 (仕事)

(1) 対象者は日中どのように過ごしていますか。(複数回答可)

1. 一般企業
 - (7) 障害者のみが働く職場
 - (4) 統合された職場
2. 助成金つき就労 (職場適応訓練、雇用助成金など)
 - (7) 障害者のみが働く職場
 - (4) 統合された職場
3. 福祉的就労 (作業所、授産施設)
4. デイセンター
5. 家の中で
6. その他 ()

(1から4の場合)

・ 活動 (労働) 時間 : 週に _____ 日 計 _____ 時間

・ 対象者は、自分の日中の過ごし方に満足していますか。

1. かなり満足している
2. 満足している
3. 不満である
4. かなり不満である
5. わからない

・ 対象者は、日中の過ごし方を変えてみたいと思っていますか。

1. はい (それはどうしてですか:)
2. いいえ

3 経済

- (1) 一ヵ月あたりの給料： _____ 円/月 (年金などを除く)
- (2) 対象者は自分の給料に満足していますか。
1. かなり満足している 2. 満足している 3. 不満である 4. かなり不満である
5. わからない
- (3) 対象者は、自分の給料の不足を補うためにどうしていますか。
1. 年金を受給している
2. 生活保護を受給している
3. 親や家族からの援助を受けている
4. その他 (具体的に： _____)
- (4) 給料は誰が管理していますか。 (_____)
- (5) 年金は誰が管理していますか。 (_____)
- (6) 対象者は、自由に使えるお小遣いを持っていますか。
1. はい : 月にいくら位ですか (_____) 2. いいえ
- (7) 対象者は自分のお小遣いに満足していますか。
1. かなり満足している 2. 満足している 3. 不満である 4. かなり不満である
5. わからない

4 余暇活動

- (1) 余暇時間には何をしていますか。当てはまる項目に?をつけてください。(複数回答可)
1. 散歩 2. ドライブ 3. ショッピング 4. 外食 5. スポーツ観戦
6. 映画鑑賞 7. 音楽を聴く 8. テレビを見る 9. スポーツ 10. 旅行
11. その他 (具体的に： _____)
- (2) 対象者は、余暇活動として他にやってみたいと思っていることはありますか。
1. はい (それは何ですか： _____)
2. いいえ
- (3) 対象者は、自分の余暇活動に満足していますか。
1. かなり満足している 2. 満足している 3. 不満である 4. かなり不満である
5. わからない 6. その他 (具体的に： _____)

5 対人関係

- (1) 対象者に友達はいますか。
1. はい 2. いいえ 3. わからない
- (2) 対象者の友達はどうな人ですか
1. 昔の施設の仲間 2. 仕事の仲間 3. 職員 4. 地域の人
5. その他 (具体的に： _____) 6. 特にいない
- ・対象者は、友達とどれぐらいの頻度で会いたいと思っていますか。
1. 頻繁にもっと多く会いたいと思っている
2. たまに会いたいと思っている
3. それほど会いたいと思っていない
4. その他 (_____)

- 2. 通っていなかった
- 3. わからない

(4) 対象者は、専門学校／大学に通っていましたか。
 1. はい () 2. いいえ

(5) 対象者は、自分の教育に満足していますか。
 1. かなり満足している 2. 満足している 3. 不満である 4. かなり不満である
 5. わからない

(6) 対象者には、何か受けてみたい教育があると思いますか。
 1. はい
 (それは何だと思えますか：)
 2. いいえ
 3. わからない

7 会議や話し合いへの参加

(1) 対象者は、選挙にいったことがありますか。
 1. はい 2. いいえ 3. わからない

(2) 対象者は、会議や話し合いに参加したことがありますか。
 1. 参加したことがない
 2. 参加したことがある—ある場合、それはどのようなものですか。
 i 地域にある本人の会のような当事者組織
 ii サービス提供機関が主催している本人の話し合いの場 (施設内自治会等)
 iii その他 (具体的に：)
 3. わからない

(3) 対象者は、上に述べたような会議や話し合いに参加して満足していますか。
 1. かなり満足している 2. 満足している 3. 不満である 4. かなり不満である
 5. わからない

(4) 対象者は、何か別の会議や話し合いに参加してみたいと思っていますか。
 1. はい (それはどんな会議や話し合いだと思いますか：)
 2. いいえ
 3. わからない

8 将来への希望

(1) 対象者には「やってみたい仕事」「住んでみたい所」「結婚」など、将来に対して何か希望をもっていますか。
 1. もっている
 2. もっていない
 3. わからない

(2) どのような希望ですか
 1. 仕事のこと (具体的に：)
 2. 住む場所 (具体的に：)
 3. 結婚 (具体的に：)
 4. その他 (具体的に：)

(3) その希望は叶いそうですか。
 1. かなう

2. 難しい
3. わからない

IV 最後に、この質問紙について、気が付いたことを記して下さい。

ご協力ありがとうございました。

地域で生活している利用者の インタビューガイドⅡ

《調査目的の説明》

例：施設から出てどんな生活をしているのか知りたくて来ました。ご協力をよろしくお願いします。

《録音についての了解を取る》

I 個別情報

- (1) ○○さんはどこの出身ですか。
- (2) 今、何歳になりましたか。
- (3) あなたはどんな人だと思いますか。

II 現在の生活

1 生活状況

(居住形態)

- (1) 今どのようなところでくらしていますか。(例：グループホーム、アパート、社員寮、通勤寮)
- (2) そこで、何人と一緒にくらしていますか。
 - ・一緒にくらしている人はどんな人が紹介してください。
 - ・その人をどう思っていますか。
- (3) 自分だけの部屋を持っていますか。
- (4) 台所、お風呂、トイレは共同ですか。
(共同の場合) 専用の台所、お風呂トイレがほしいですか。
- (5) その家(部屋)の住み心地はどうですか。
- (6) 部屋は、鍵を自分でかけることができますか。
- (7) あなたにことわりなく、誰かがあなたの部屋に入ることがありますか。
- (8) (他の人と一緒の場合) 一人になる場所がありますか。
- (9) ずっと住み続けていこうと思っていますか。

(家具)

- (1) 部屋にある家具(椅子、机、タンス、本棚など)は、自分で買いに行きましたか。それとも、誰かに買ってもらいましたか(買うのを手伝ってもらいましたか)。自分で買った家具はどれですか。
- (2) それを気に入っていますか。それとも、買い直したいと思っていますか。

(掃除・洗濯)

- (1) 掃除・洗濯はどんなふうをしていますか。
(自分でしている場合)
 - ・その方法はどのようにして学びましたか
 - ・誰かに手伝って欲しいと思っていますか。(手伝ってもらっている場合)
 - ・自分一人でもできそうですか。
- (2) そうしようと決めたのは誰ですか。

(料理)

- (1) 料理はどんなふうをしていますか。
(自分でしている場合)
 - ・その方法はどのようにして学びましたか
 - ・誰かに手伝って欲しいと思っていますか。(手伝ってもらっている場合)
 - ・自分一人でもできそうですか。
- (1) そうしようと決めたのは誰ですか。
- (2) ごはんやおかずの中身を誰が決めていますか。自分の何かを食べたいと言えますか。

- (3) (朝・昼・晩) いつもご飯は誰とどのような物を食べていますか。
(4) たまには外食をしていますか。してみたいですか。

(買い物)

- (1) 買い物はどんなふうをしていますか。
(自分でしている場合)
・ その方法はどのようにして学びましたか
・ 誰かに手伝って欲しいと思っていますか。
(手伝ってもらっている場合)
・ 自分一人でできそうですか。
(2) そうしようと決めたのは誰ですか。

(緊急の連絡)

- (1) 急なことや困った時の連絡はどんなふうをしていますか。
(自分でしている場合)
・ 誰かに手伝って欲しいと思っていますか。
(手伝ってもらっている場合)
・ 自分一人でもできそうですか。
(2) そうしようと決めたのは誰ですか。

(決まり)

- (1) 今、住んでいる家に何かきまりがありますか。
(ある場合)
・ どんなきまりですか。
・ その決まりをどう思いますか。
・ きまりはみんなで話し合っていて決めていますか。それとも職員や世話人が決めていますか。
・ きまりを守るのは大変ですか。

3 日中活動 (雇用)

- (1) 昼間はどこに行っていますか。(会社、作業所など)

(仕事や日中活動の場がある場合)

- ・ 労働時間： 週に 時間
- ・ どうしてそこで仕事をするようになったのですか。
- ・ どんな仕事をしていますか。
- ・ その仕事は好きですか。
- ・ 職場の人とか職員と仲良しですか。それとも、そうではないですか。
- ・ (うまくいっていない場合) どうしてでしょうか。
- ・ ずっとこの仕事を続けていきたいですか。
- ・ 職場を変えたいと思っていますか。
- ・ (変えたいと思っている場合) それはできそうですか。
- ・ 今までに、仕事を変ったことがありますか。(解雇とか、異動による)
- ・ 次の仕事を見つける時、誰か手伝ってくれましたか。
- ・ それは誰ですか。
- ・ あなたの本当にしたいこと(仕事)は何ですか。それを、誰かに伝えたことはありますか。
- ・ それは誰ですか。

(仕事や日中活動の場がない場合)

- ・ どうして今のような日中の過ごし方になったのですか。
- ・ 仕事(日中活動)をしてみたいと思いますか。
- ・ どんな仕事(日中活動)をしてみたいですか。
- ・ それは実現できそうですか。

→3 経済の(4)へ

3 経済

- (1) 給料をいくらもらっているか、知っていますか。(もし構わなかったら金額を教えてください)
- (2) 給料はたくさんもらっていると思いますか。それとも、少ししかもらっていないと思いますか。また、なぜそう思うのですか。
- (3) 働いた文だけ給料をもらっていると思いますか。
- (4) 障害基礎年金をもらっていますか。(いくらもらっていますか)
- (5) (年金や給料などをあわせて) 1ヶ月にもらっているお金は、たくさんだと思いますか、それとも少ないと思いますか。
- (6) 小遣いは月にどのくらいですか。
- (7) 小遣いは多いと思いますか、それとも、少ないと思っていますか。またなぜそう思うのですか。
- (8) 小遣いは何に使いますか。
- (9) お金をどう使うかは、誰が決めていますか。(例：自分だけ、GH世話人、職員、親兄弟、相談しながら)
- (10) お金や貯金通帳を自分で管理していますか。それとも誰かに頼んで手伝ってもらっていますか。
(自分で管理している場合)
 - ・自分で管理することをどう思っていますか。
 - ・誰かに手伝ってもらいたいと思うことがありますか。何か不安なことがありますか。(手伝ってもらっている場合)
 - ・そのことをどう思っていますか。自分で管理したいと思っていますか。自分で管理できそうですか。(自分で管理したい場合)
 - ・誰かに伝えることができましたか。それは誰ですか。その人から何と言われましたか。そのときどう思いましたか。
- (11) 郵便局や銀行でお金をおろしたり預けたりすることができますか。それとも、誰かに手伝ってもらっていますか。
(自分でできる場合)
 - ・自分でするのは楽しいと思っていますか。
 - ・誰かに手伝ってもらいたいと思うことがありますか。何か不安なことがありますか。(手伝ってもらっている場合)
 - ・そのことをどう思っていますか。自分でしたいと思っていますか。それはできそうですか。どうすればできると思っていますか。
- (12) お金の面で将来に不安はありますか。

5 余暇活動

- (1) お休みのときにはいつも何をしていますか。
(例：散歩、ドライブ、ショッピング、映画鑑賞、音楽、スポーツ観戦、旅行など)
- (2) お休みのときに、食事や買い物、映画館などに行くことがありますか。
(ある場合)
 - ・それは楽しいですか。
 - ・どんな乗り物を利用して出かけますか。(徒歩、自転車、バス、タクシー、自家用車など)
- (3) 出かける場合一人で行きますか。それとも、誰かと一緒に行きますか。
(一人で行く場合)
 - ・一人で出かけるのは楽しいですか。それはどうしてですか。
 - ・誰かと一緒に出かけたいと思いますか。(誰かと一緒に行く場合)
 - ・誰と行くことが多いですか。それは楽しいですか。
 - ・たまに一人で出かけたいと思いますか。
- (4) 夕方や週末(土曜日や日曜日)に家にいる時、いつも一人でいますか、それとも、誰かと一緒にいますか。
(一人でいる場合)
 - ・一人でいるのは楽しいですか。それはどうしてですか。
 - ・誰かと一緒にいたいと思いますか。(誰かといる場合)
 - ・誰と一緒にいるのですか。その人と一緒にいるのは楽しいですか。それはどうしてですか。

- ・他の人と一緒にいたいと思いますか。それは誰ですか。それはどうしてですか。
 - ・たまに、一人になりたいと思いますか。
- (5) 誰かのところに遊びに行ったりすることがありますか。
- (「はい」と答えた場合)
- ・誰のところですか。そこで何をするのですか。それは楽しいですか。
- (「いいえ」と答えた場合)
- ・誰のところに遊びに行きたいと思いますか。それはできそうですか。

6 対人関係

(1) 友だちはいますか。

(友人がいる場合)

- ・それはどんな人ですか(例：昔の施設の仲間、仕事の仲間、職員、地域の人)
- ・友だちとはどれくらい会いますか。
- ・友だちといつも何をしていますか。
- ・友だちといて楽しいですか。どんなことが楽しいですか。
- ・友人といて、嫌なことはありますか。どんなことですか。
- ・その人とこれからも友だちでいたいと思いますか。
- ・友だちがもっと欲しいですか。

(友だちがいない場合)

- ・友だちが欲しいですか。それとも、欲しくはないですか。
- ・友だちはできそうですか。それはどうしてですか。

(2) 親や、きょうだい(家族)とは、会ったりしますか。

(家族と会う場合)

- ・家族とは、どのくらい会いますか。もっと会いたいと思いますか。
- ・いつも一緒に何をしますか。
- ・家族といて楽しいですか。どんなことが楽しいですか。

(3) 近所の人(地域の人)と仲良くしていますか(付き合いはありますか)。

- ①あいさつを交わす ②一緒にお茶をのむ ③一緒に遊びに行く
④付き合いはない ⑤わからない ⑥その他()

- ・近所の人ともっと仲良くしたい(付き合いたい)と思いますか。

(4) 恋人はいますか。

(いる場合)

- ・その人とふたりきりになる機会がありますか。
- ・その人と、一緒にいつも何をしていますか。

(いない場合)

- ・彼(彼女)を欲しいですか。
- ・それとも、欲しくはないですか。どうして欲しくないのですか。

(5) 誰かと結婚をしたいと思ったことがありますか。将来、結婚をしたいと思いますか。

(6) 自分の子どもを欲しいと思ったことがありますか。将来、子供がほしいと思いますか。

(7) 何かに悩んだり、寂しいと思った時、いつも誰かに相談していますか。

(8) 誰かの相談にのってあげることはありますか。

(「はい」と答えた場合)

- ・その人にどんなことをしてあげますか。

- ・あなたは苦手なことをするとき、誰かに手伝ってもらいたいと思いますか。
- ・あなたは誰かに手伝ってもらいたいとき、「手伝って」と頼むことができますか。

6 会議・話し合いへの参加

(1) 選挙にいったことがありますか。

(2) 会議や話し合いに参加したことがありますか。

(参加したことがある場合)

- ・それはどのようなものでしたか。
- ・活動への参加は、誰かに勧められましたか。

(いつも参加している場合)

- ・どのような活動をしていますか。